

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-54C	21-044	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Alcohol drinking and risks of liver cancer and non-neoplastic chronic liver diseases in China: a 10-year prospective study of 0.5 million adults 中国における飲酒と肝がんおよび非腫瘍性慢性肝疾患のリスク：50万人を対象とした10年間の前向き研究		
執筆者		
Im PK, Millwood IY, Kartsonaki C, Guo Y, Chen Y, Turnbull I, Yu C, Du H, Pei P, Lv J, Walters RG, Li L, Yang L, Chen Z; China Kadoorie Biobank (CKB) collaborative group.		
掲載誌		
BMC Med. 2021 Sep 17;19(1):216. doi: 10.1186/s12916-021-02079-1.		
キーワード	PMID	
アルコール性肝疾患, コホート研究, 飲酒パターン, 肝硬変.	34530818	
要旨		
背景: アルコール摂取は、肝腫瘍性疾患および非腫瘍性疾患の重要な危険因子である。しかし、飲酒パターンやアルコール耐性が疾患リスクとどのように関連するかについては、中国人と西洋人の間で顕著な違いがあるか明らかになっていない。		
方法: 2004年から2008年の間に、中国10地域において30-79歳の成人512,715人（男性41%）を対象としたKadoorieバイオバンクで、アルコール摂取量、飲酒パターン、その他の特性を調査した。ベースラインでがんや慢性肝疾患の既往のない492,643人の参加者を10年（追跡中央値）追跡し、その間2,531例の肝がん、2,040例の肝硬変、260例のアルコール性肝疾患（ALD）、1,262例の非アルコール性脂肪肝疾患（NAFLD）発症を確認した。Cox回帰を用いて、アルコール摂取量および飲酒パターンと各疾患との関連性について調整ハザード比（HR）を算出した。		
結果: 男性の33%、女性の2%が日常飲酒者であった（少なくとも週1回の飲酒）。現在飲酒者である男性では、飲酒量は主要な慢性肝疾患リスクと正の用量反応関係を示し、摂取量が280g/週（約4ドリンク/日）以上の場合、HRは、肝がん（n=547）で1.44（95%CI 1.23-1.69）、肝硬変（n=388）で1.83（1.60-2.09）、ALD（n=200）で2.01（1.77-2.28）、NAFLD（n=198）で1.71（1.35-2.16）、全肝疾患（n=1,775）で1.52（1.40-1.64）であった。ALDとの関連は、顔面紅潮を報告する男性（アルコール耐性が低いことを意味する）においてより強く現れた。1週間の総アルコール摂取量で調整すると、毎日飲むものでは、毎日飲まないものに比べてALDのリスクが有意に高くHR: 2.15（1.40-3.31）、食事なしで飲むものは、食事ありで飲むものに比べて、肝がん1.32（1.01-1.72）、肝硬変1.37（1.02-1.85）、ALD1.60（1.09-2.33）でリスクがより高くなった。女性の現在飲酒者は、禁酒者に比べてALDのリスクが有意に高かったが、他の肝疾患のリスクは高くなかった。		
結論: 中国人男性では、アルコール飲酒は主要な慢性肝疾患リスクの有意な上昇と関連しており、特定の飲酒パターン（毎日飲む、食事なしで飲む）は、さらに疾患リスクを悪化させる可能性があることが明らかになった。		